

プログラム番号	06076
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	九州大学大学院法学府		
②学長名	梶山千里		
③所在地	〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	法学研究院・助手	
	担当者氏名	長尾亜唯, 古賀寛子	e-mailアドレス admission@law.kyushu-u.ac.jp
	電話・FAX番号	092-642-4162 (FAX)	
⑤ホームページ URL	http://www.law.kyushu-u.ac.jp/programs/english/index.htm		
⑥大学院在学留学生数	987人 (うち、国費留学生 282人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	英語による比較国際政治学修士課程プログラム		
②プログラムの形態	修士課程 (2年間)		
③実施研究科・専攻	大学院法学府 政治学専攻		
	(所在地) 福岡市東区箱崎6-19-1		
④連携大学・研究科・専攻名			
⑤受入れ学生数	7	人 (うち研究留学生優先配置人数 :	2 人)
		(うち日本人学生数 :	0 人)
⑥担当教員数	合計 11	人 (うち専任 ; 5人、兼任 : 3	人、非常勤 : 3人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 大学院法学府・教授		
	研究科長名	直江 眞一	

【3. プログラムの内容】

- 開設の趣旨：本プログラムは、1995年に試行的に開始され、2年後の1997年より正式に法学研究科（当時）修士課程のプログラムとなったCSPAコース（Comparative Studies on Politics and Administration in Asia）を継続、発展させるものである。CSPAコースの開設は次のような趣旨に基づいている。1980年代に経済の興隆で注目を浴びるようになったアジア諸国において、新たな挑戦としての地域協力、国家政府の役割再考、民主化などが問題となってきたが、アジアにおける政治の研究は公式制度レベルにとどまっていた。そこで、地域協力まで視野にいたした、合理的かつ現実的視点を備えた人材の育成を目指して、政治の現場で起こりつつある変化を読み取り、国家レベルに制約されない政治のあり方をアジアの学生とともに探求することを柱として開設された。
- 内容および特色：CSPAコースは、公共政策、国際政治分野における2年間の修士課程であり、コースカリキュラムのキーワードは、「ガバナンス」である。すなわち、興隆しつつある地域としてのアジアにおける統治システム、歴史的経緯、政策分野を中心に、日本および欧米諸国との比較の視点にたつて、伝統的な国家中心の統治システムにとらわれない分権型統治、地域レベルの協力のあり方と可能性を、理論的側面と現状分析の側面から探求するカリキュラム構成を組んでいる。途上国出身の学生にとって特に関心の高い民主化に関する基礎的知識および現状分析枠組みの習得のための授業も、カリキュラムに組み込まれている。これらの課題を、アジア諸国のみならず欧米出身の学生も共に、さらにクラスによっては日本人学生も参加して学び、議論している。こうした出身国の多様性の高い環境は、テキストに依存した知識を超えて現実的議論の広がりを可能にしている。
- 教育・指導体制：大きく分けて、コースワーク（20単位）と論文作成（10単位）から構成される。1年目は授業での講義、文献購読、教室での報告と議論などを通して、ガバナンスの概念と現状の理解を深めることに費やされる。1学年暦は2セメスターで構成され、授業は、セメスターごとに組まれているので、授業内容の一定の幅を確保することが可能である。続いて2年目は授業への参加に加えて、修士論文の執筆に取り組む。

授業は、本研究院の教員を中心に組まれているが、外部の非常勤講師3名と学内非常勤講師の協力を得て、極力学生のニーズに応えられるカリキュラム構成を心がけている（本欄末尾の授業一覧を参照）。また、日本社会や国際関係における今日の問題に関する特別講演を随時企画して、学生の幅広い関心に応えている。修士論文の作成は、春学期（4月開始）に毎月一回開催されるワークショップを中心に進められる。ワークショップには、指導教員のみならず全教員と全学生が参加し、修士論文を執筆する学生は論文の進捗を報告し、参加者からのコメントや質問を受けてそれぞれの論文をより完成度の高いものにしていく。このようなワークショップは、教員と学生の双方に負担を課すものであるが、教育手法としてきわめて効果的であり、学生にとっては授業で体得した知識に基づいて、自らの研究をまとめ、かつ伝達する学術活動の実践の場となる。論文作成の準備の一環として、学術論文作成のための特別講義も行っている。CSPA修了生の修士論文は、論文集として製本し後続の学生の参照に供している。ちなみに、これまでに修士論文を完成できなかった学生は出ていない。
- 使用言語：すべての授業と指導は英語のみで行われる。日本語習得は義務付けられていないが、希望する学生は、本校留学生センターの日本語授業を受講できる。
- 募集方法、対象国、学内選考方法等：募集は、本校と学生交流協定を締結している30カ国程度にわたる約100の大学を中心に、交流実績のある外国の大学への応募案内の送付による。さらに、平成15年に改善を施した法学部／法学府ホームページに案内を掲載し、応募用紙をダウンロードできるようにしている。選考は、応募時に提出される研究計画（50%）、出身大学の成績（25%）および推薦書2通（25%）にもとづいて、CSPA実施委員会の3名の委員の合議による。

- 修了後の進路、期待される効果およびフォローアップ体制：これまでの修了生の主な進路は、自国の公務員、大学教員、国際機関職員などである。CSPAコースの修了生は、2006年9月の時点で15カ国43人に及んでいる。これらの学生は2年間を共有し、かつ2年目に新しい学生を迎えることで、ネットワークを広げることが可能であり、母国にもどり主に公務員となっている学生も多いことに照らして、個人レベルのネットワークのみならず、将来的には国家レベルのネットワークにも寄与できる可能性がある。さらに、博士課程への進学者や大学教員となった修了者によって、近い将来には本学との学術交流も期待できる。留学生には生活や勉学での支援のために日本人学生がチューターとしてつけられており、日本人学生にとっての国際体験や日本人とのネットワーク形成の機会も提供されている。こうしたネットワークの維持と活用のために、HP上に同窓会コーナーを設置している。
- プログラムの点検・評価体制：每学期末に授業担当教員全員による報告会を開催して、教員間の意思疎通と問題の共有を諮っている。どの授業も10名以下と少人数であり学生の反応が捕捉しやすいため、学生による授業評価は実施していない。CSPAコースは、法学部／法学会が実施している外部評価の対象となっている。

2006-2007年度授業科目

- Modern History of Japanese Political System
- Japanese Political Thoughts in Its Historical Context
- Seminar on Governance and Global Politics
- Seminar on Comparative Politics and Administration
- Comparative Analysis of Education Policies and Administration in Asia
- Asian Pacific Political Economy
- Korean Politics in Comparative Perspective
- Modern History of Japanese Political System
- The Politics of Social Development
- International Health Policy; Human Security and Health
- Energy and Environmental Policy in Contemporary World
- Japanese Politics, Majoritarianism, Proportionalism, and the Concept of Power
- International Relations in East Asia